



Arcserve Backup

紹介資料

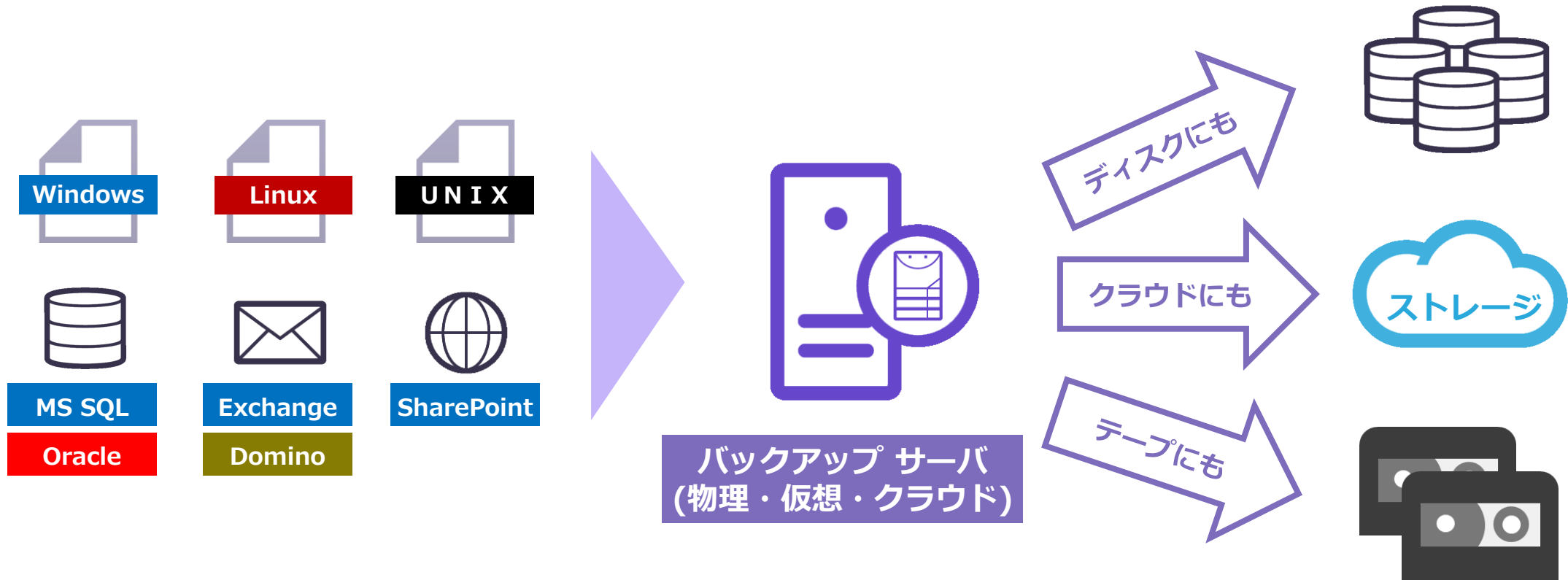
Apr 13, 2022 (Rev: 2.0)





Arcserve Backup: データ保護の大黒柱 頼れるバックアップ

バックアップ先を選ばず、
小規模から大規模まで保護できるファイル単位のバックアップ ソリューション





様々な要望に対応できるバックアップ装置



ディスクベースデバイス



テープ形式:

ファイル システム デバイス
(FSD: File System Device)



重複排除:

データ デデュープリケーション デバイス
(DDD: Data Deduplication Device)



クラウド デバイス

クラウド ストレージを利用

Amazon S3, Microsoft Azure Storage,
国内クラウドベンダー (動作要件参照)



テープ デバイス

単体テープ装置

テープ集合装置 (VTL 含む)

ライブラリ, オートローダ, チェンジャ

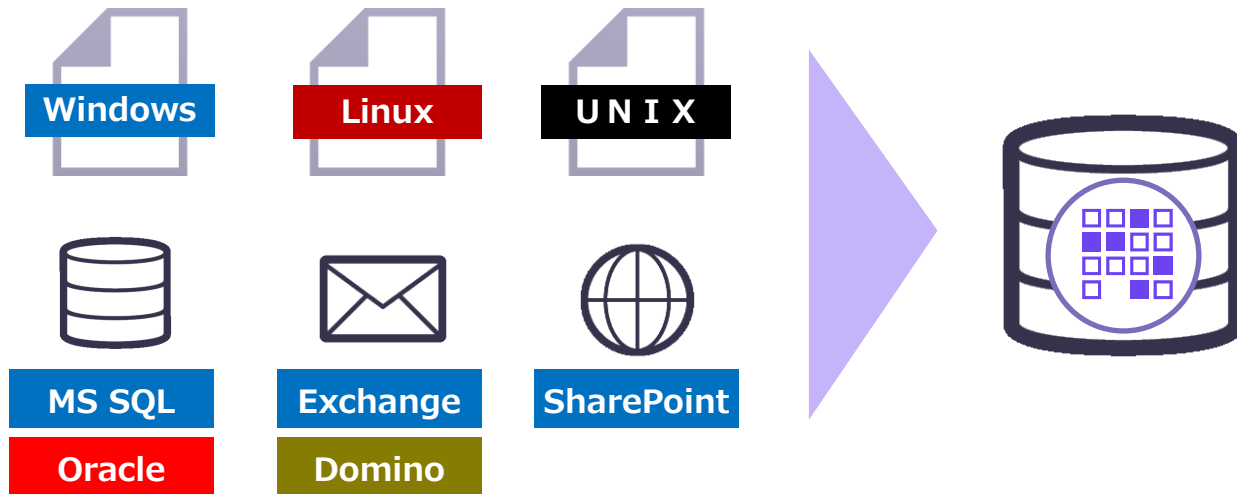


重複排除でバックアップデータを大幅削減

排除率の参考値 (お客様平均値)*

初回のフルバックアップ: **25%** 削減

2回目以降のバックアップ: **93%** 削減



すべてのエージェントに対応
(OS, アプリケーション)

誰でもできる簡単な設定
(重複排除デバイスを選ぶだけ)

追加費用の発生しない標準機能

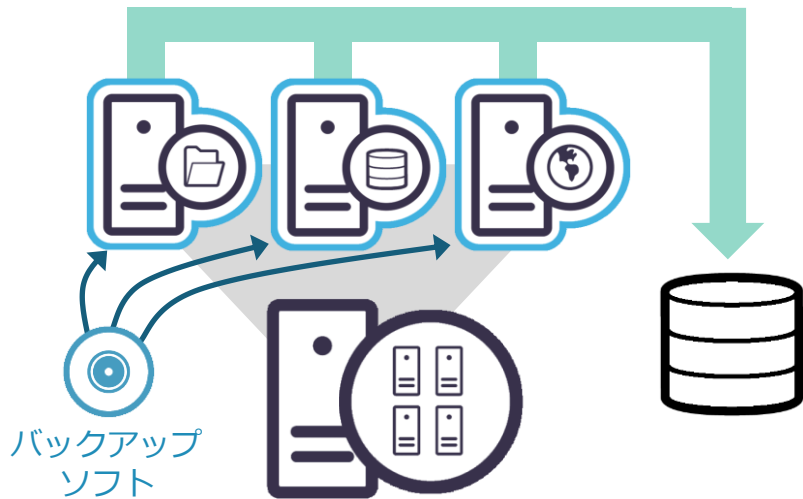
* 排除率はデータによって異なります



仮想環境での簡単なバックアップと復旧

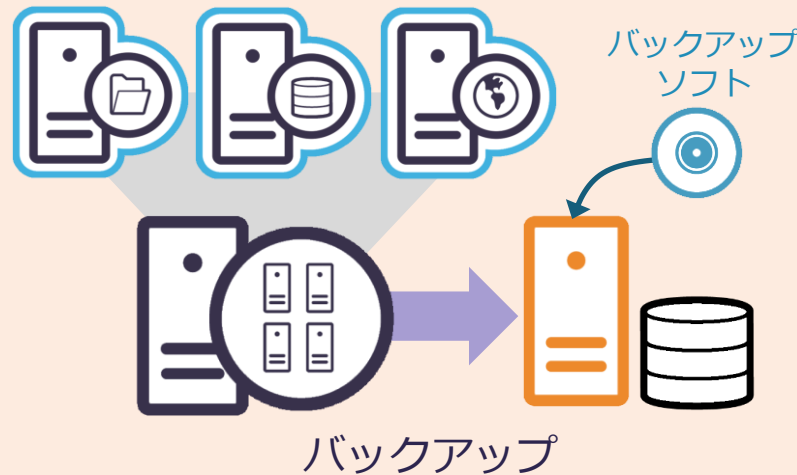
ご利用環境にあわせ、2つのバックアップ手法から選択

エージェントベース



各ゲストにソフトを導入、
LAN 経由でバックアップ

エージェントレス (おすすめ)



仮想独自のバックアップで
仮想マシンへの導入工数を削減

仮想ホストから取得
vSphere: VADP
Hyper-V: VSS

ファイル復旧
(Windows VM)

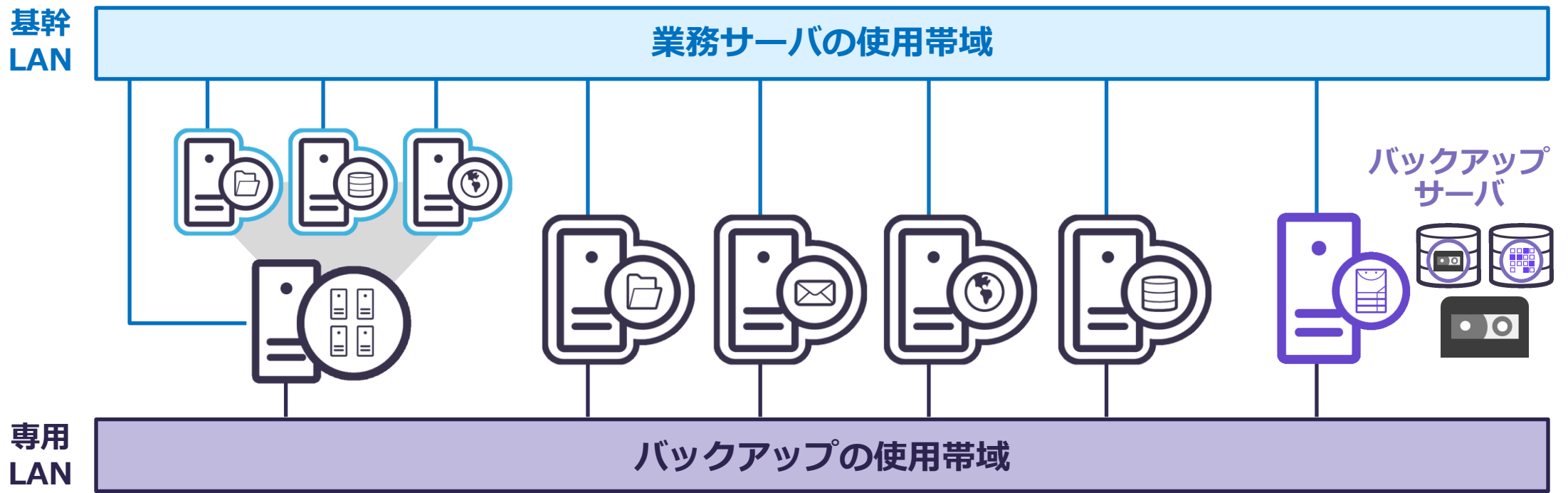
最短3ステップでできる
簡単な復旧



バックアップ専用回線で業務サーバの帯域を確保

バックアップ データ送信用のアドレスを設定

複数のアドレスも設定可 (複数アドレスの場合はラウンド ロビン方式で順々に利用)





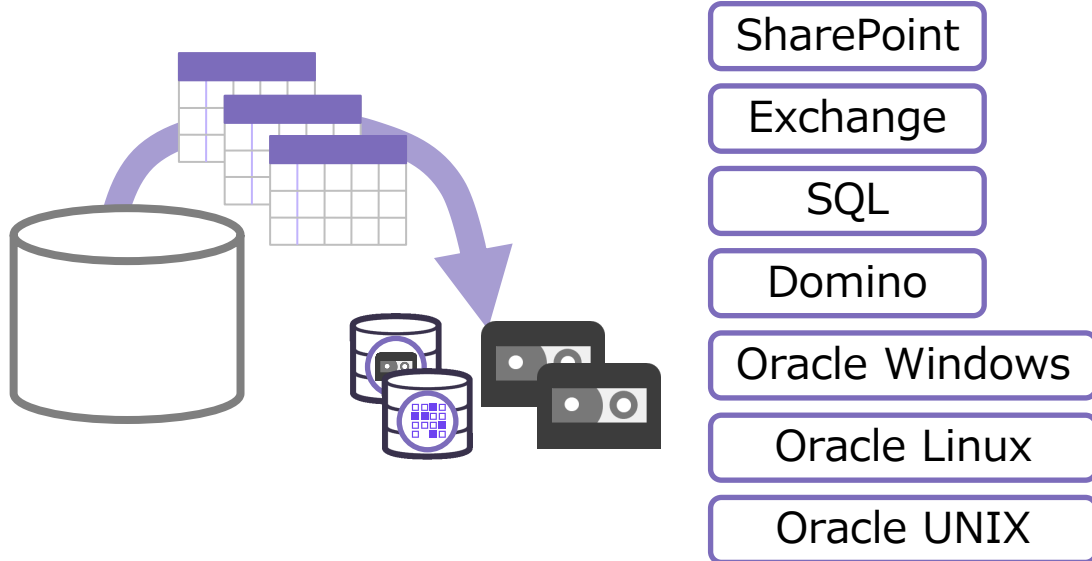
整合性の取れた状態でオンライン バックアップ

用途に合わせた2種類のバックアップ手法

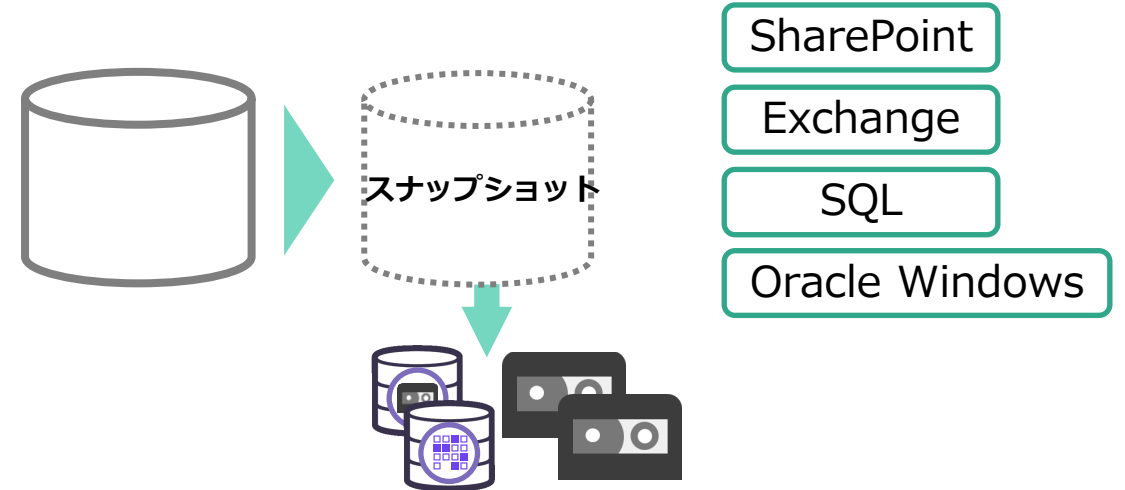
API: 差分/増分、高可用性対応など、アプリケーションと密に連携

VSS: 単純構成のアプリケーションを全体的にバックアップ

アプリケーションの API を利用 *1



アプリケーション用の VSS を利用 *2



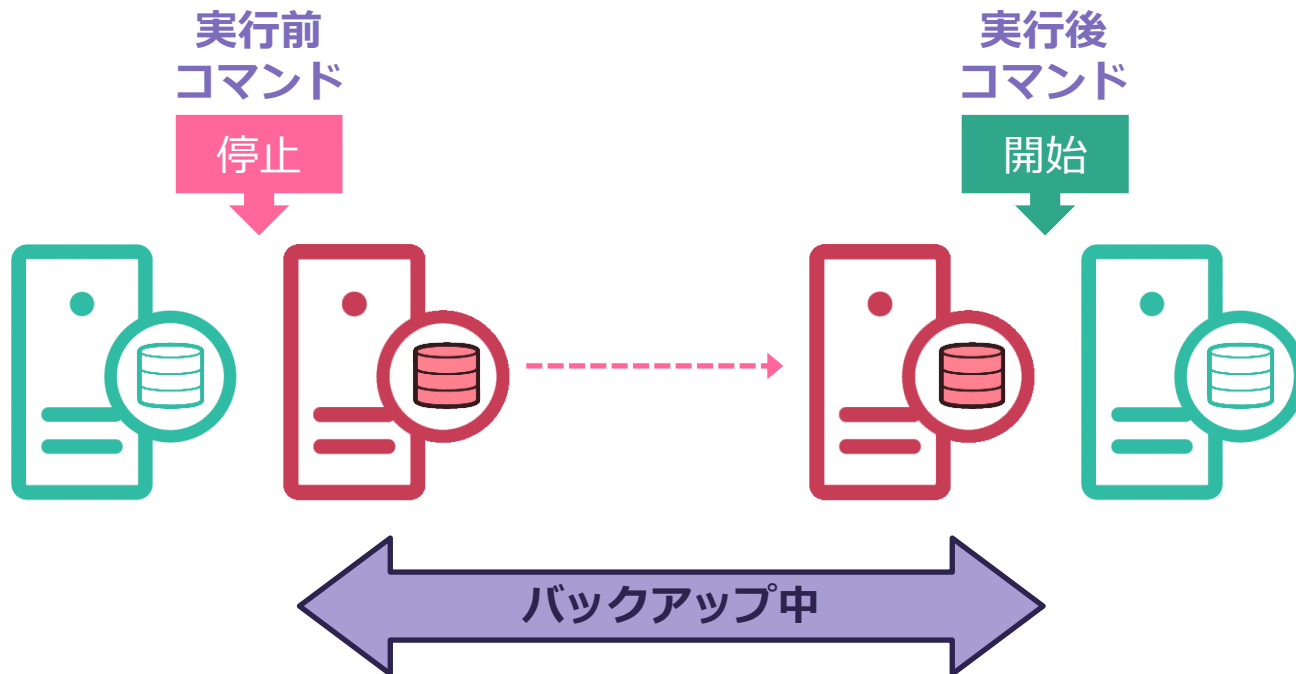
*1 各アプリケーション用のエージェント製品で対応

*2 Agent for Open Files で対応



静止状態で整合性を確保してバックアップ

実行前/後のコマンド実行でアプリケーションの停止と開始を実行*



コマンド結果 (リターンコード) から
バックアップ処理の実施判定

実行失敗を防ぐ
コマンド実行ユーザ指定

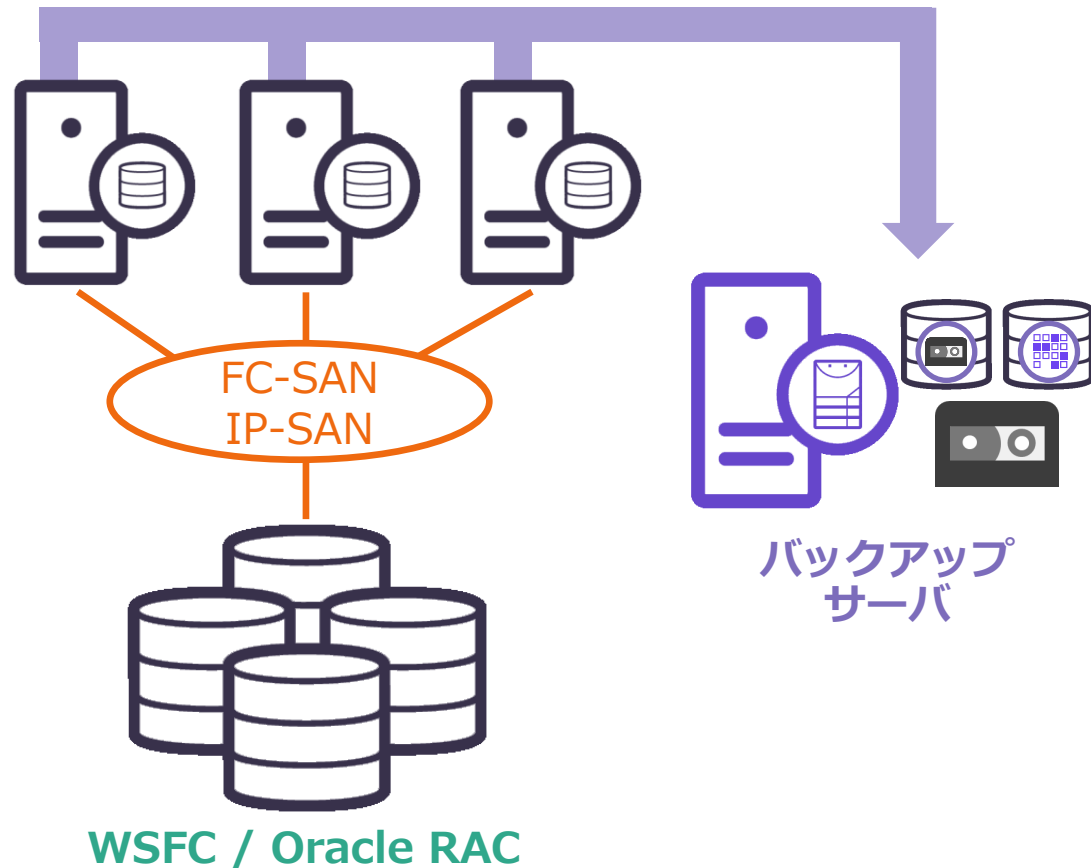
バックアップ結果による
実行後コマンドの実施判定

* 利用者側で用意されたコマンドをフルパスで指定



クラスタや高可用性環境でも安心のバックアップを提供

高可用性環境でも起こりうるデータ損失のリスクに対応



WSFC / Oracle RAC

WSFC

あらゆる障害ケース (部分損傷/全損) を網羅

クォーラムのバックアップ / 復旧

バックアップサーバのクラスタ化*にも対応

フェイルオーバー後に各ジョブの自動再実行

Oracle RAC

Windows / Linux / UNIX に対応

Arcserve Backup の UI からスケジュールを設定

Exchange DAG / SQL Always On

バックアップ取得元を選択

コピー (デフォルト)、もしくはプライマリ から選択



Active Directory を最小限の影響範囲で復旧

複雑な要素が絡み合った AD を最小単位で復旧



オブジェクト レベル
リストア



Active Directory

リストア可能なオブジェクト

- Organizational Unit
- User
- Group
- Computer
- Contact
- Connection
- Shared folder
- Printer
- Site
- Site container
- Site link
- Site link bridge
- Site settings
- Subnet container
- Trusted domain
- Configuration class
- Lostandfound class
- Builtindomain class
- Dnszone class
- Domain class
- Domaindns class
- Dmd class
- Organizationalunit class
- Containerrecifiers class



コマンドラインで管理系ソフトと連携

2種類の方法でジョブ ネットへの組み込みに対応

ジョブ ネットへの組み込みで一連のフロー (前処理 > バックアップ > 後続処理) で実施
ジョブ結果 (リターン コード) の受け渡しで後続判定可

スクリプト実行

Arcserve Backup の UI で
バックアップ設定をスクリプトとして保存



保存した
スクリプトを実行
(cabatch コマンド)

コマンド実行

各種コマンドに必要なパラメータを設定

C:¥ >

- バックアップ (ca_backup)
- リストア (ca_restore)
- テープコピー (tapecopy)
- デバイス管理 (ca_devmgr)

などのコマンドを実行

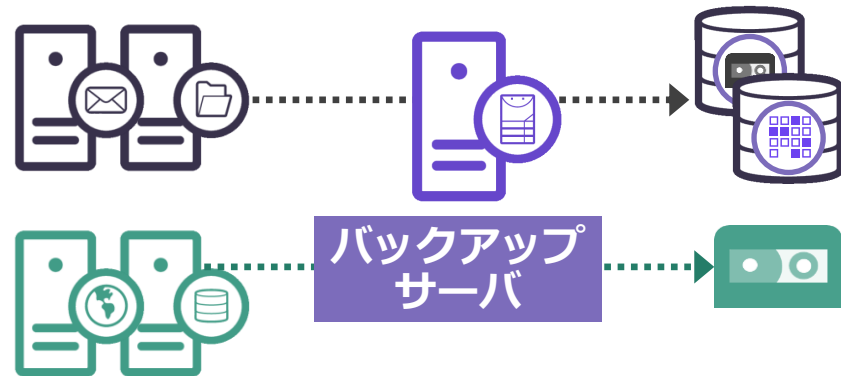


並列処理でバックアップのスピードアップを実現

複数のバックアップ先へ並列処理*

パラレル/マルチ ストリーミング (選べるバックアップ装置の組み合わせ)

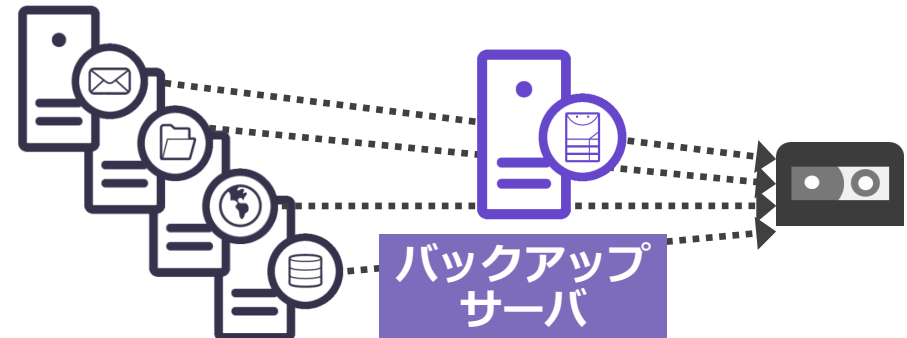
テープとディスクなど、種類の異なる装置の組み合わせでも並列処理を実施



1本のテープへ同時書き込み*

マルチプレキシング

同時に複数のノードから同じテープにバックアップを実行し、処理速度の速いテープを効率的に利用



* どちらの機能もバックアップサーバ自身のバックアップではドライブ単位で分割

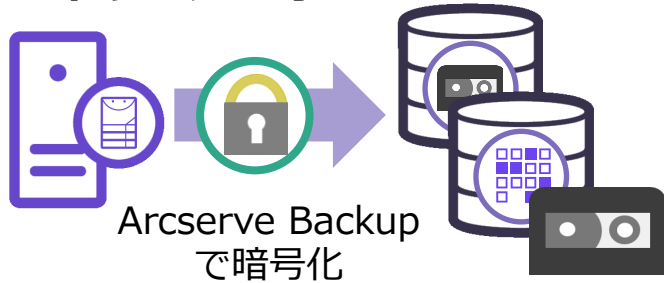


様々なバックアップのセキュリティ機能を装備

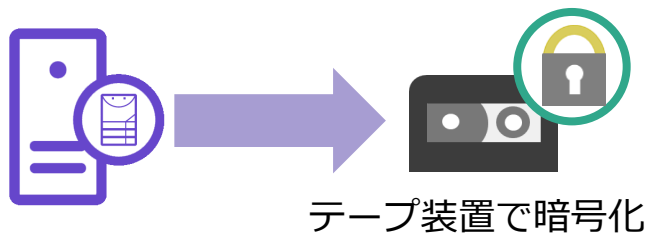
バックアップデータの暗号化

個人情報保護法やマイナンバー対応で重要なデータの流出を防止

ソフトウェア暗号化

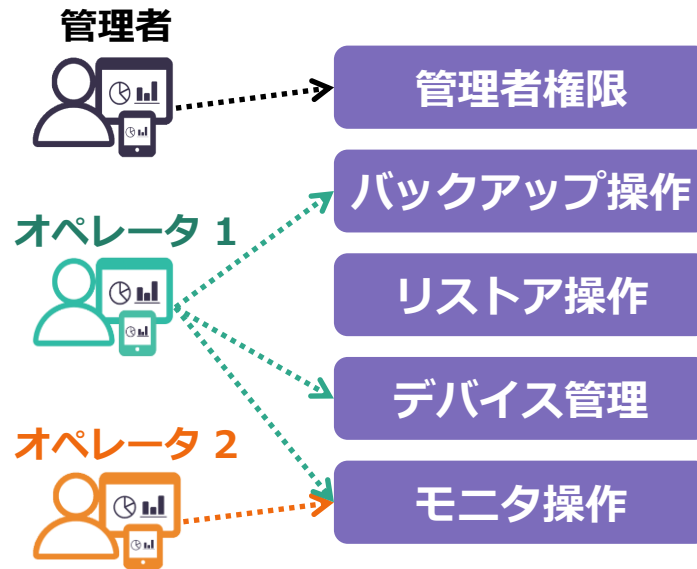


ハードウェア暗号化



役割ベースの権限付与

本番データのコピーを作成する重要なバックアップシステムにアクセス可能なユーザの権限を定義



監査証跡

改ざんが出来ない監査ログですべてのユーザ操作を記録、データ流出時の原因確認ツールとして利用可

監査ログ

監査成功	X X X X
監査成功	X X X X
監査成功	X X X X
監査成功	X X X X
監査失敗	X X X X
監査成功	X X X X
監査成功	X X X X
監査成功	X X X X
監査成功	X X X X





[参考] バックアップ スケジュールの設定例

Webページのカタログ センターからスケジュール設定例にアクセス

<http://arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/>



概要

スケジュールの基本的な考え方と
Arcserve Backup のスケジュール設計概要

設定例

よくあるスケジュール設定例
カスタム スケジュール 5例
ローテーション スキーマ 4例

廃棄/保護ジョブ

最初から導入されている
2つのスケジュール概要と使い方

Tips

パスワード変更やバックアップ順序設定など
スケジュールの Tips



バックアップだけじゃない！？意外に便利なユーティリティ機能

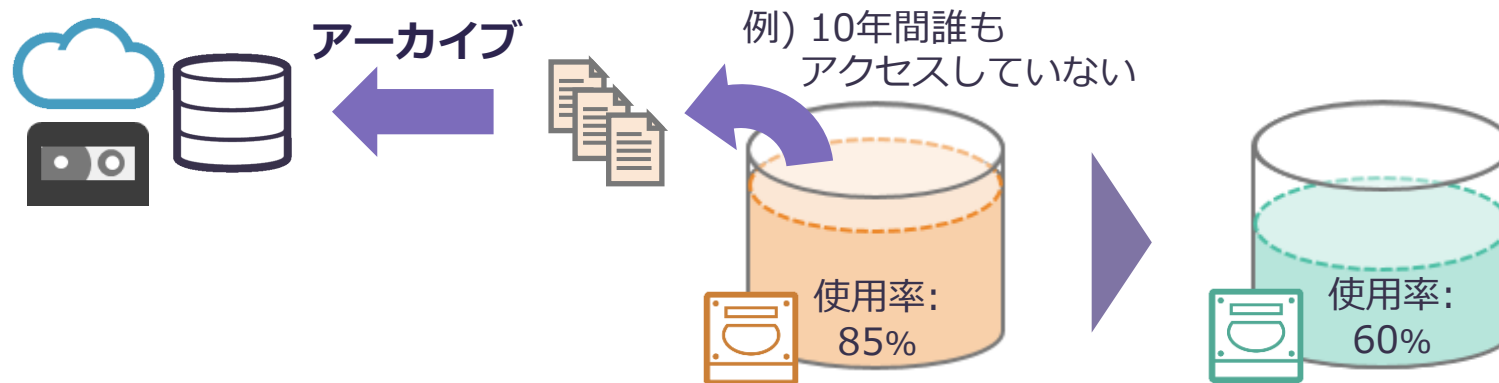
コピー機能でデータの冗長化を実現

差分/増分もできるスケジュール機能でローカル/リモートにデータを冗長化

ミラーリング設定でコピー元とまったく同じデータを保持 (同期タイミングはコピー実行時)

アーカイブ機能で誰も利用しない古いデータを移動*

本番サーバから古いデータを安価な装置 (ディスク / テープ / クラウド) に移動し、空き容量を確保



* 移動元の本番サーバに対象ファイルのアーカイブ情報を残し、データ移動可



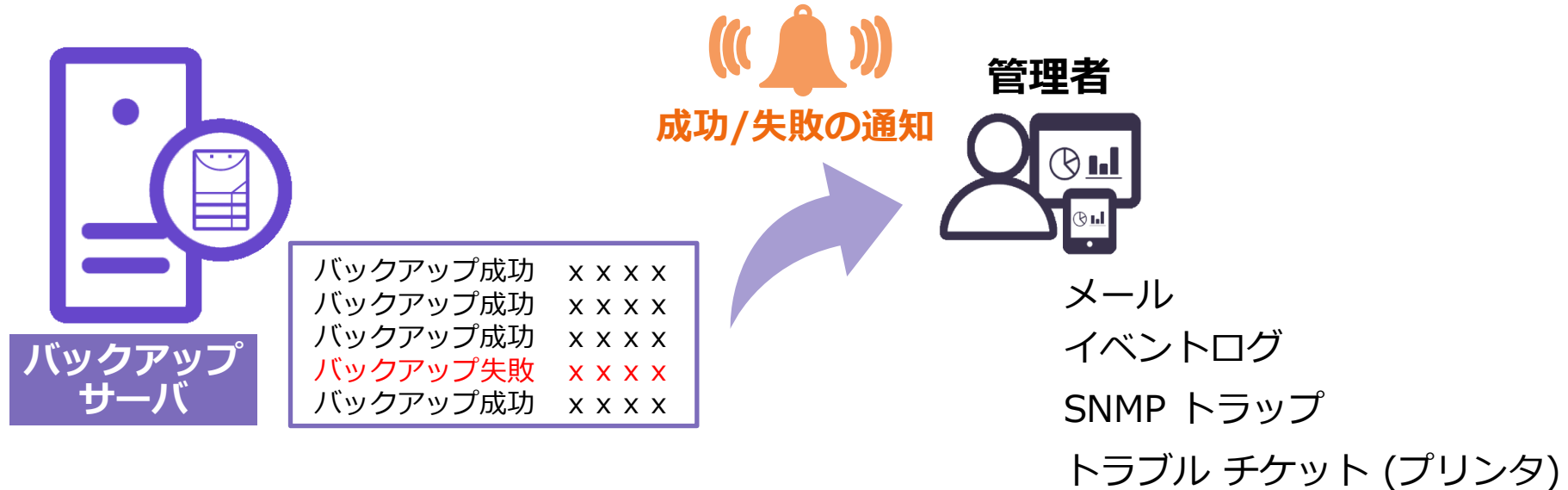
処理結果を管理者に通知して確認漏れを防止

ジョブ結果やログメッセージをトリガーにしてアラートを通知

管理者が普段チェックするメールやイベントログにバックアップ結果やエラー情報を通知

すべての処理 (バックアップ/リストア/コピーなど) でアラートを設定可

処理結果のほか、Arcserve Backup のログに記録されるキーワードでアラート通知設定も可

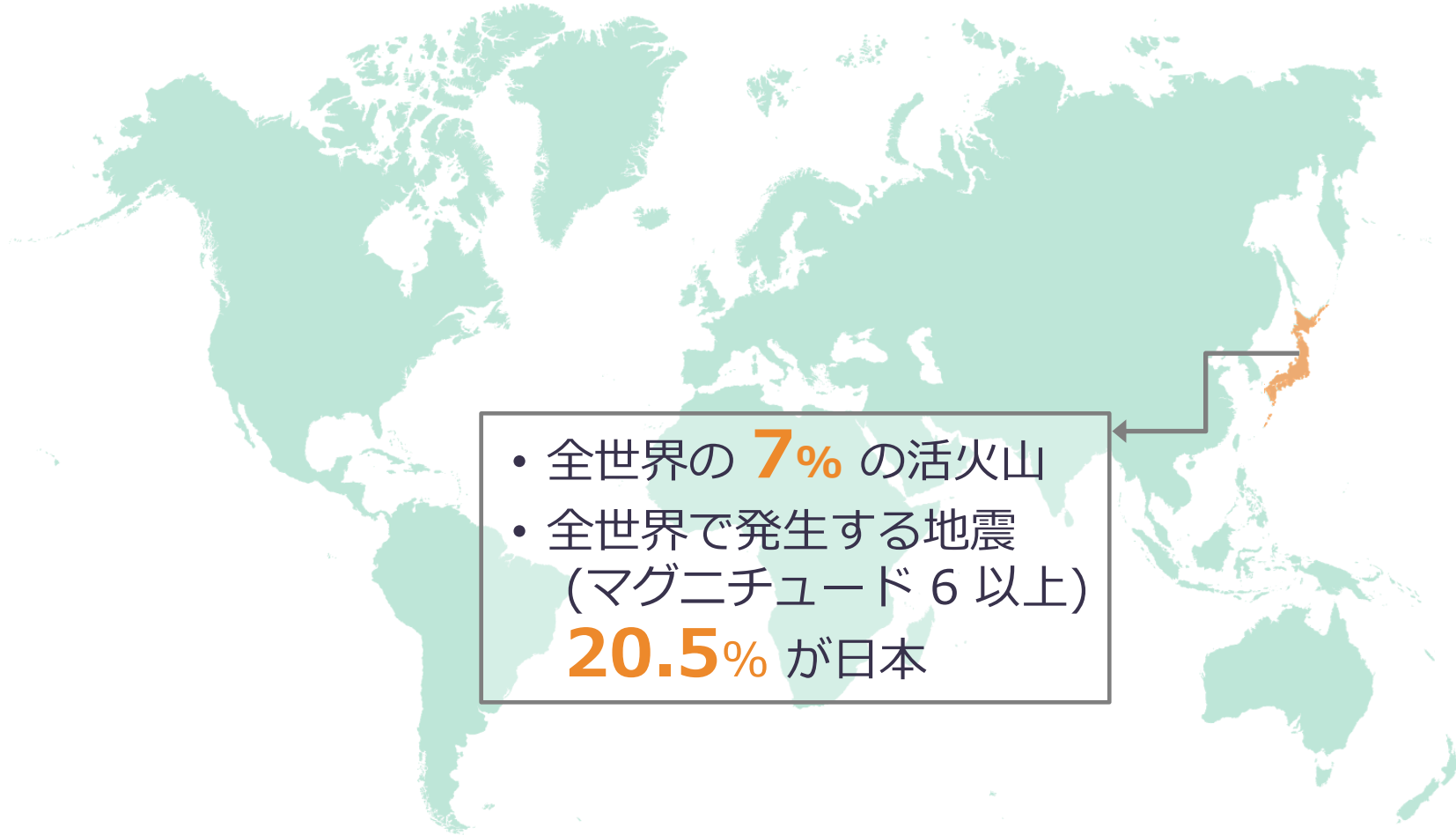




Arcserve Backup 災害対策ソリューション



日本は世界有数の安全でもあり危険でもある国



世界一安全な都市:

1. 東京 (日本)
2. シンガポール
3. 大阪 (日本)

世界一危険な都市:

1. 東京 / 横浜 (日本)
2. マニラ (フィリピン)
3. 珠江デルタ (中国)
4. 大阪 / 神戸 (日本)
5. ジャカルタ (インドネシア)
6. 名古屋 (日本)

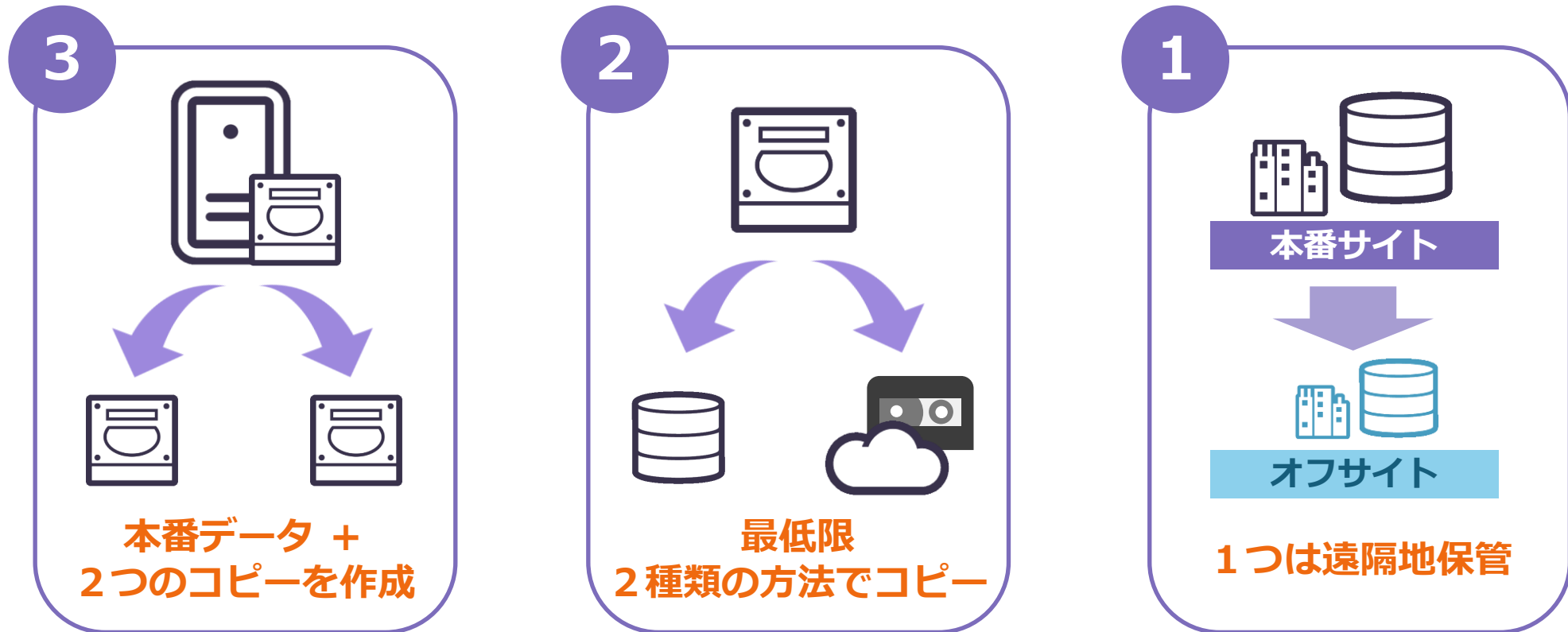
ソース: 英ガーディアン紙 "Which is the safest city in the world?"



災害対策のポイントはデータの多重化と遠隔地保管

バックアップの“3-2-1”ルールを活用

バックアップ データの転送と組み合わせることで災害対策を実現





2段階形式のバックアップでデータを多重化

ステージング処理でバックアップデータのコピーを作成

データの長期保管 / 遠隔地保管として利用

1次領域にバックアップした後、最終装置にバックアップデータをコピー

基本的な考えは、1次領域をディスクに、最終装置としてテープ装置を利用





Arcserve Backup のステージング パターン例

D2D2T (Disk to Disk to Tape)

一般的なステージングのパターン



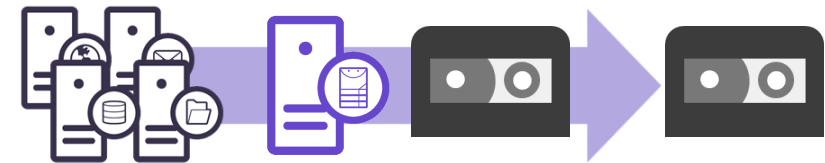
D2D2D (Disk to Disk to Disk)

ディスク ベース デバイス間でデータ コピー
1次領域を内蔵に、最終媒体にNAS利用など



D2T2T (Disk to Tape to Tape)

テープ間でデータ コピー
メディアをオフィス内と遠隔地保管用に作成



D2D2C (Disk to Disc to Cloud)

クラウドにバックアップ データをコピー

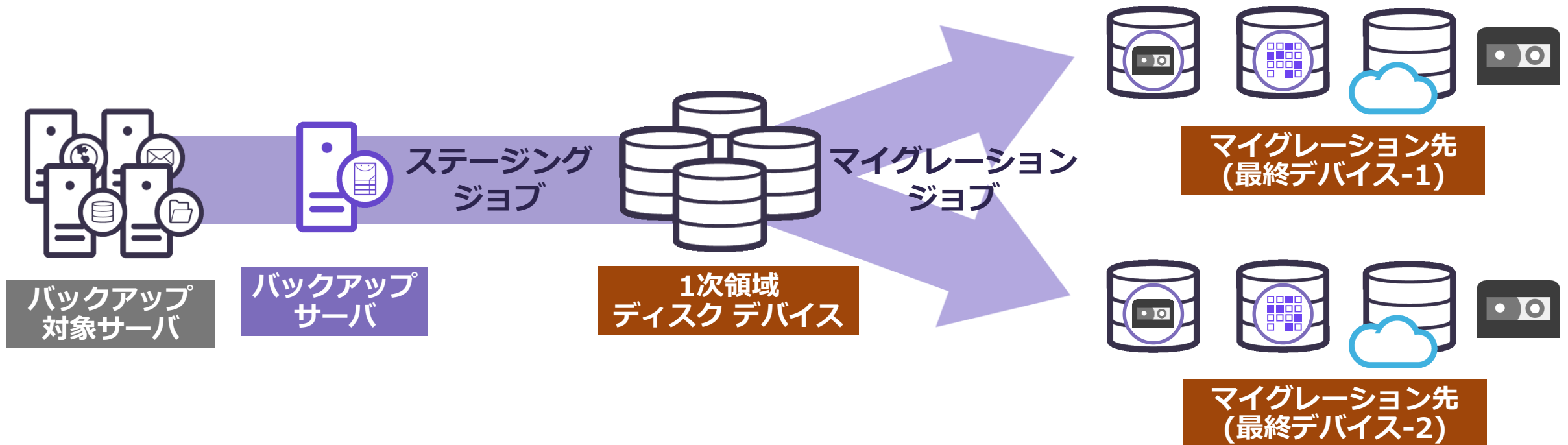




広範囲な災害を想定した複数の遠隔地保管

ダブルテープコピー機能でバックアップデータを3つ作成

長期保管をクラウドとテープ装置の両方に設定





ネットワーク経由で確実にバックアップデータを保管

Arcserve Replication との併用で遠隔地にバックアップデータを保管

回線の寸断や断線でも復帰時に転送を自動再開

曜日と時間単位の帯域制御指定で業務への影響を最小限にして転送

ケース1:
バックアップデータそのものを転送

ケース2*:
遠隔地に複製した本番データをバックアップ



* ケース2はファイルサーバ、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server に対応



Arcserve Backup 災害対策 (クラウド ソリューション)



Arcserve Backup で実現するクラウド ソリューション

バックアップ データの保管



クラウド ストレージへ格納 安価な災害対策

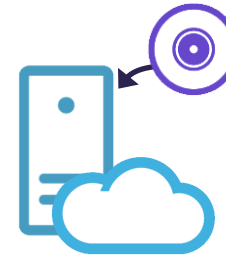
2種類の転送 (D2C / D2D2C)
差分/増分での転送
認定済のストレージを利用



クラウドを使ったテープ運用 慣れ親しんだ運用を継続

オンプレミスと同じ運用を継続
クラウド保管へ簡単移行

クラウド VM のデータ保護



データ損失への対応

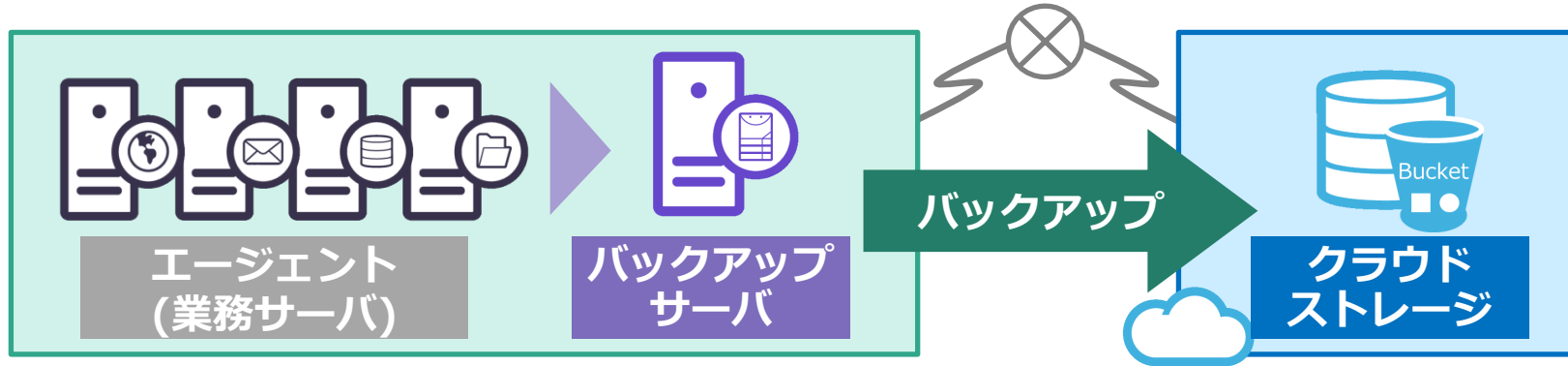
すべてのクラウドに対応

Arcserve Backup の導入で、
オンプレミスと統一した保護

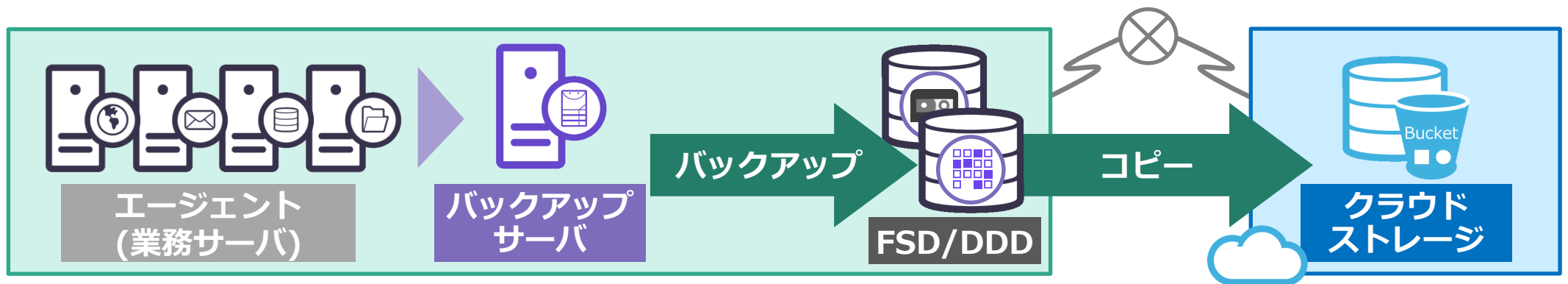


バックアップ データを災害に強いクラウド ストレージに作成

1. D2C方式 (直接クラウドへバックアップ)



2. D2D2C方式 (ステージングによる2段階形式)

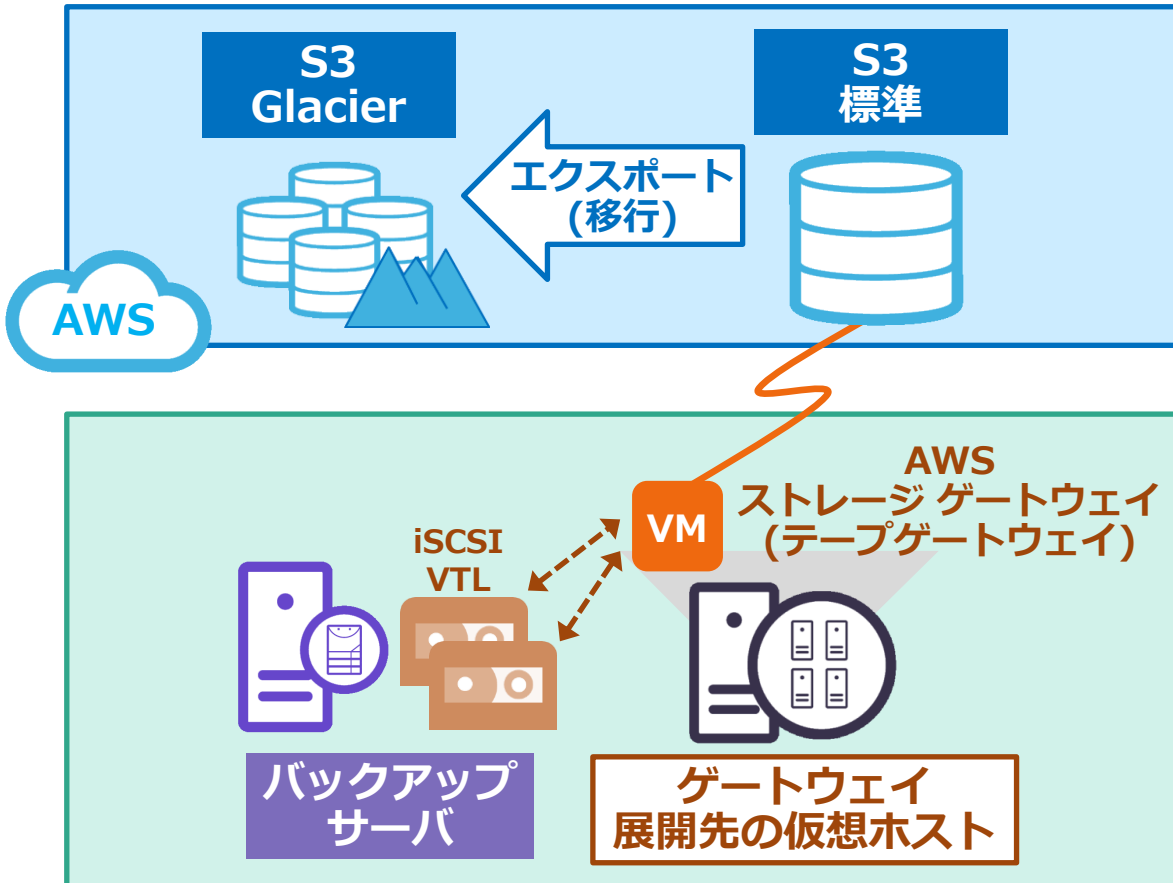


クラウド ストレージは動作要件掲載の認定済ストレージから選択 (AWS S3, Microsoft Azure, 国内クラウド ベンダのストレージ)



クラウドでのテープ運用を実現 (AWS ストレージ ゲートウェイ*)

オンプレミスでのテープ運用そのままにバックアップ データをクラウドへ保管



差分/増分バックアップで
AWSの利用料金を削減

オンプレミスと同じテープ運用ならではの
スケジュールごとの保存期間設定

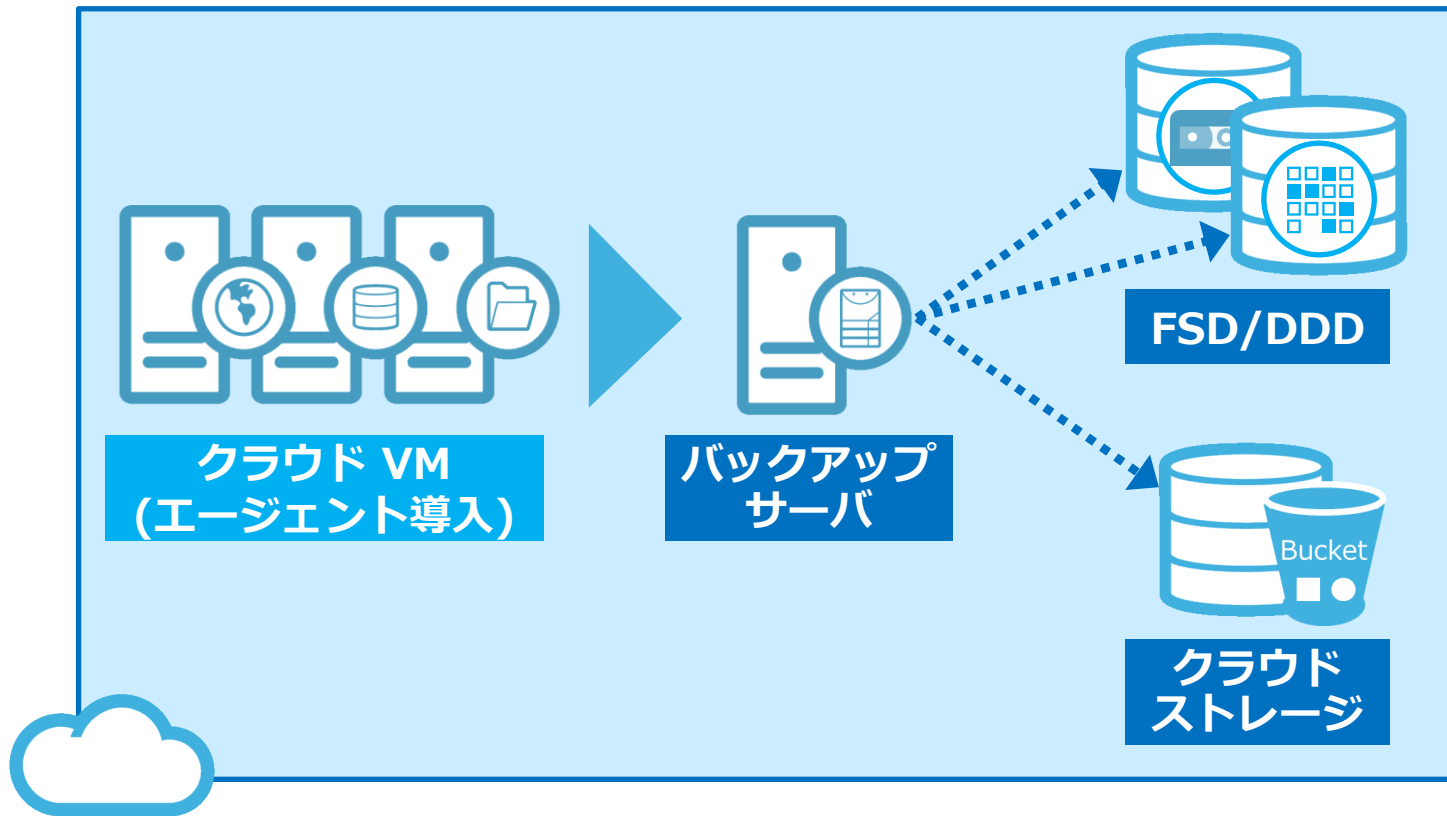
テープのエクスポートで価格の安い
S3 Glacier / S3 Glacier Deep Archive
に移行

※ ファイル ゲートウェイやボリューム ゲートウェイは未サポート



データ保護が必須となるクラウド VM をバックアップ

世の中のすべてのクラウド サービスをサポート



データ損失から簡単に復旧

オンプレミスと同じ操作で
管理工数を削減

仮想のライセンス適用*で
導入コストを削減

* 1VM あたり ゲスト単位の Agent for Virtual Machines Bundle を適用



Arcserve Backup

オプション製品



バックアップ サーバの機能を補強するオプション製品群

復旧機能の強化

Disaster Recovery Option

システム復旧の高速化と手順の簡素化

ツール機能の強化

Enterprise Module

イメージでの高速バックアップ、
raw バックアップ、メディア管理など

NDMP NAS Option

NDMP プロトコルによるNASバックアップ

管理機能の強化

Central Management Option

複数のバックアップ サーバの一元管理

Global Dashboard

拠点間のバックアップ サーバの一元管理

大規模環境への対応

Tape Library Option

マルチ ドライブ搭載のライブラリ制御

SAN Option

SAN (FC / IP-SAN) 共有のテープ装置制御



Disaster Recovery Option (DRO) のメリット

1
復旧時間を
大幅に短縮

OS やセキュリティ パッチ/ソフトウェアの導入不要
システム復旧を開始したら後は終わるのを待つだけ！

2
超簡単な
復旧手順

ウィザードによる簡単操作で作業ミスから解放

3
工数削減

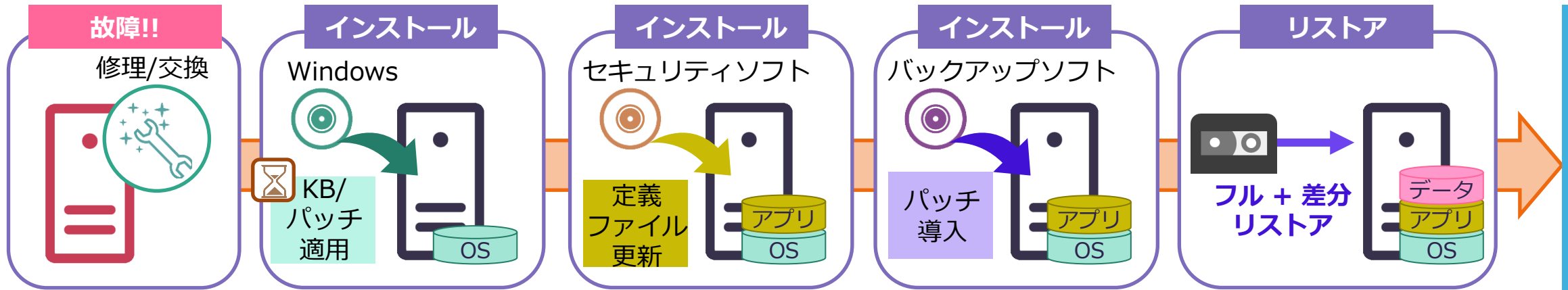
簡単な操作による手順書作成時間の短縮



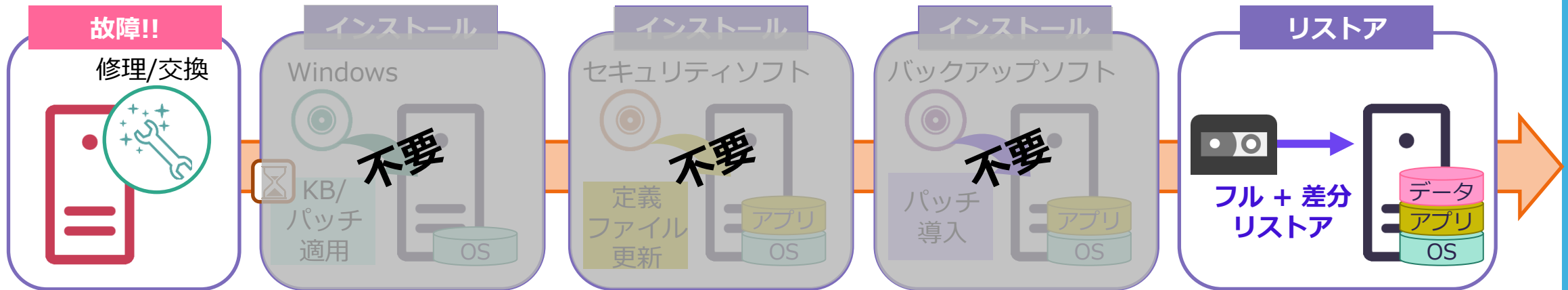


DROの復旧で手順を簡素化 / 間違いを防止

一般のサーバ復旧



DROのサーバ復旧



復旧



お得なセット価格を用意

通常の価格

製品名	型番	税込価格
Arcserve Backup 19.0 for Windows	NASBR019FMJBASE00C + MABW0000MAJ000E12C	189,750円
Disaster Recovery Option	NASBR019FMJDROE00C + MABW0000MAJ005E12C	111,320円

お得な
セット価格

製品名	型番	税込価格
Arcserve Backup 19.0 for Windows Base with Disaster Recovery Option	NASBR019FMJBDRE00C + MABW0000MAJ0B1E12C	278,300円

22,770円お得!

※ 1年メンテナンス付ライセンスの価格
(パッケージ製品や3年以上のメンテナンスもあり)



付録

Arcserve Backup 19.0 新機能



Windows Server 2022 対応

Datacenter: Azure Edition を含むすべてのエディションに対応

Windows Server 2022 対応製品

- Arcserve Backup ベース製品
- 各オプション製品
- Client Agent for Windows
- Agent for Open Files
- Agent for Virtual Machines
(VM Agent per Host)
- Agent for Microsoft SQL

Azure Edition の対応製品

- Arcserve Backup ベース製品
- Central Management Option
- Enterprise Module
(Image Option機能除く)
- Global Dashboard
- Client Agent for Windows
- Agent for Open Files
- Agent for Microsoft SQL



* 詳細な対応製品や制限事項などは動作要件や注意制限事項を参照



CentOS 後継として期待される Linux OS への対応

サポートの終了した CentOS のデータ移行ソリューションとしても利用可

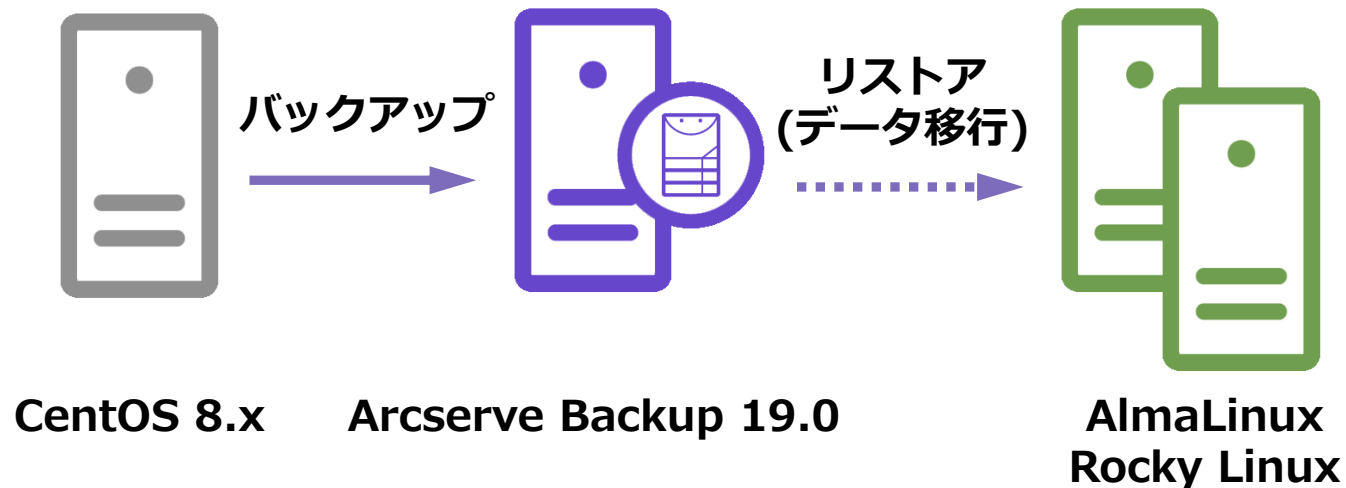
- AlmaLinux 8.4 / 8.5 対応
- Rocky Linux 8.5 / 8.5 対応

Arcserve Backup を使うメリット

マネージャ画面で管理
(スケジュールやステータスなど)

実行前と実行後のコマンドを
スクリプトで定義可

フル / 増分バックアップで
移行前の切り替え時間を短縮





その他の OS / アプリケーションへの対応

Arcserve Backup 19.0 でサポートを追加する OS とアプリケーション

Linux OS (Client Agent)

- CentOS 8.x *
- SUSE Linux 15.x *
- Oracle Enterprise Linux 8.x *
- Debian 11.x

SharePoint Server 2019

- Windows Server 2016
- Windows Server 2019

Linux 版 Oracle DB 19c

- Red Hat Enterprise Linux 8.x
- SUSE Linux 15 SP2
- Oracle Enterprise Linux 8.x

UNIX 版 Oracle DB 19c

- Solaris SPARC 11
- AIX v7.2
- HP-UX Itanium 11.31

* Arcserve Backup 18.0 でも 2022年4月よりサポート開始

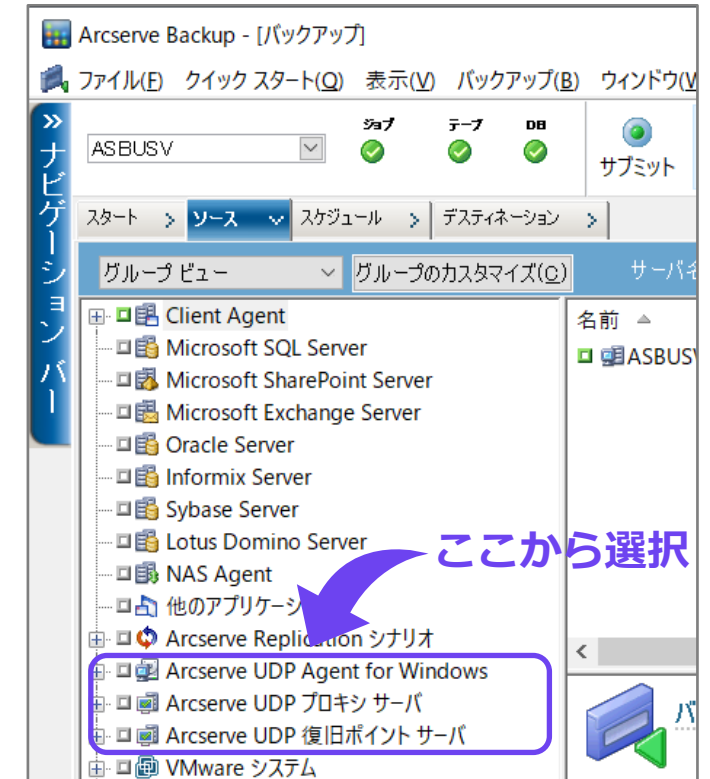
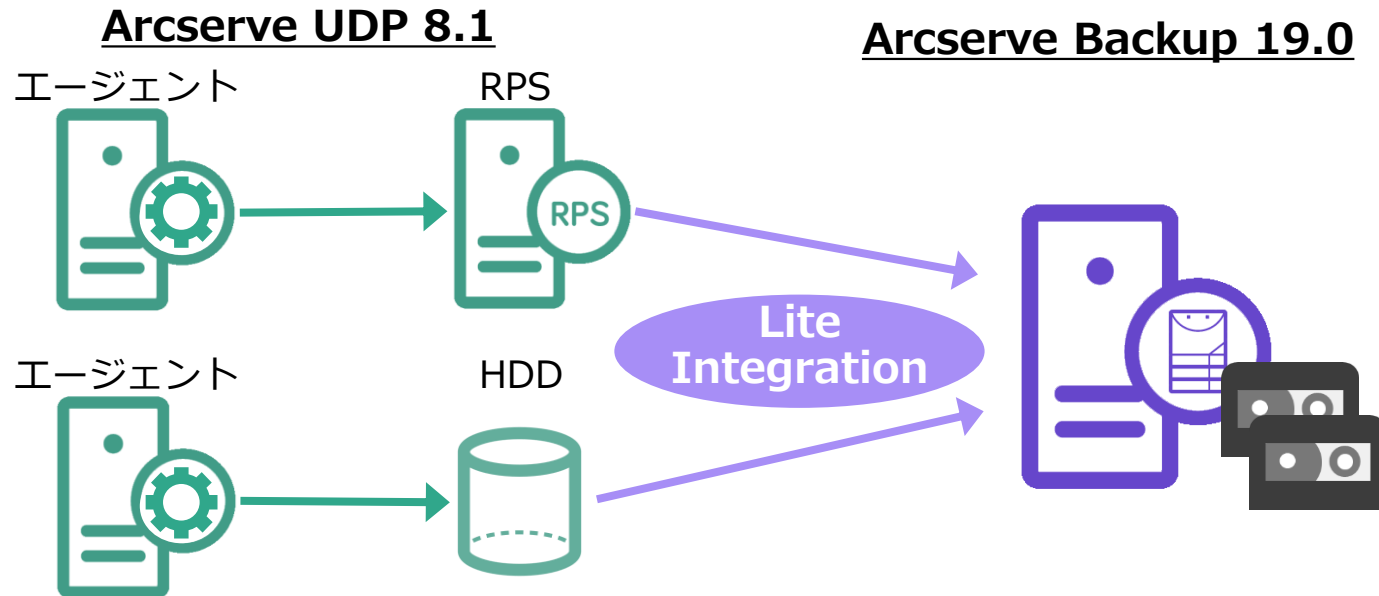


Arcserve UDP 8.1 とのテープ連携でも新 OS に対応

Windows Server 2022 に Arcserve Backup と Arcserve UDP を同居可*1

Arcserve Backup の画面でバックアップを設定する Lite Integration をサポート

→ Arcserve UDP コンソールの「テープへのコピー」タスクは Arcserve UDP 次期バージョンで対応*2



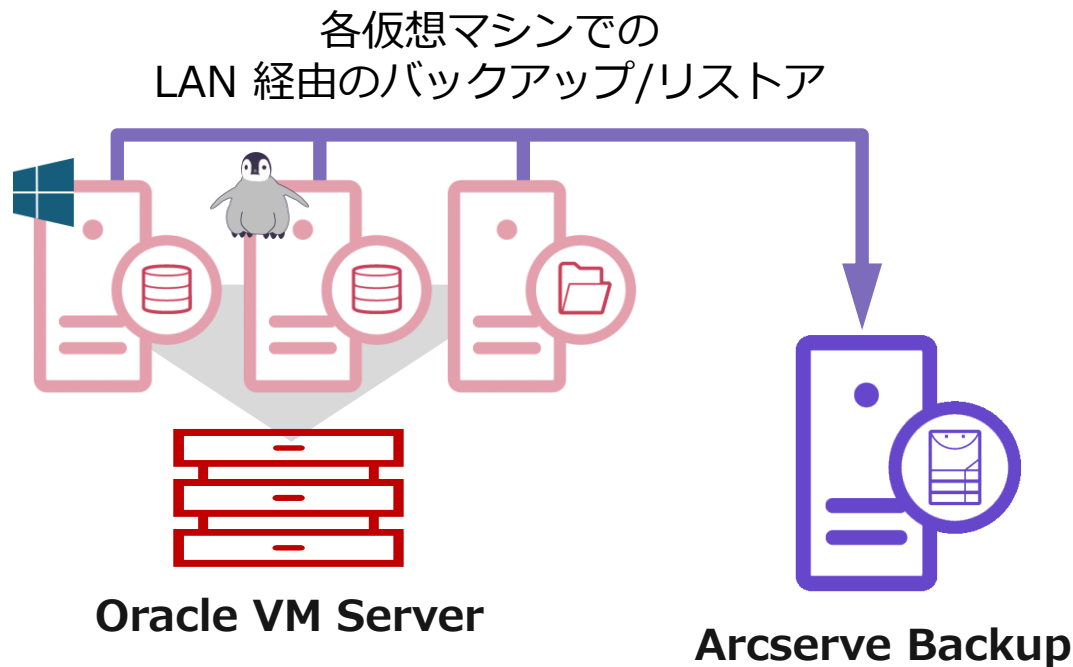
*1 Arcserve ライセンスデスクに Tape Integration 用の Arcserve Backup 19.0 のキーを申請

*2 テープへのコピー タスクを利用する場合は Arcserve Backup 18.0 を導入 (Windows Server 2022 非対応)



仮想化環境の対応強化: Oracle VM Server for x86*

エージェントベース (物理サーバと同じバックアップ方法) をサポート



Windows や Linux 仮想マシンの
Oracle DB をバックアップ

他の保護すべき対象ノードと
バックアップ システムを統一

バックアップ サーバ機能を
仮想マシンに導入可

* Arcserve Backup 18.0 でも 2022年1月よりサポート開始

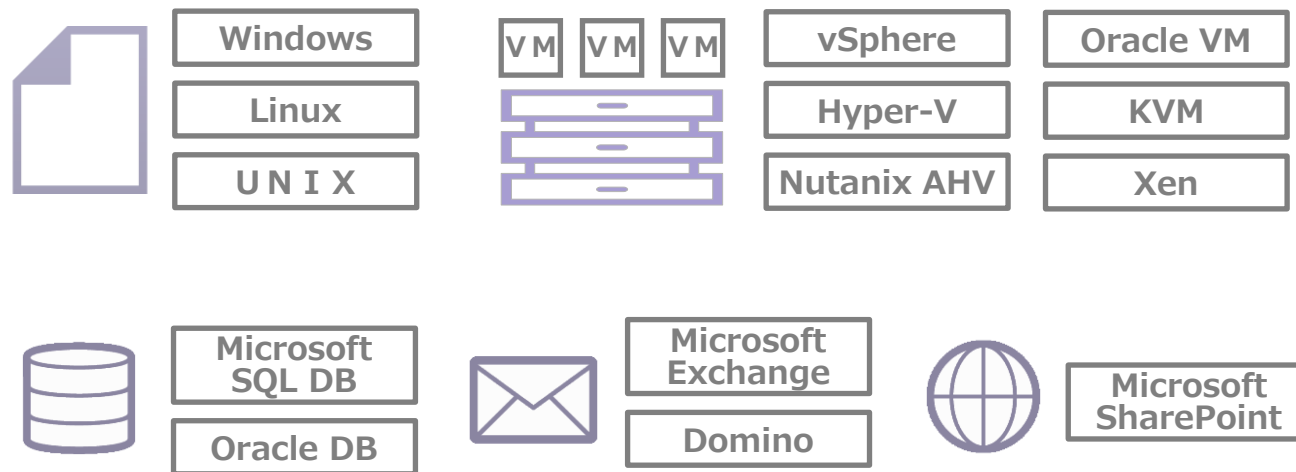


LTO-9 テープ装置への対応*

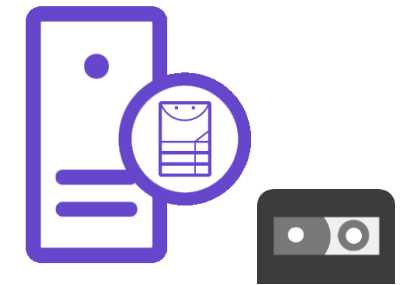
非圧縮 18TB のテープで大容量データを 1 巻に収納

強固なランサムウェア対策として WORM (Write Once Read Many) にも対応

各種エージェント製品



バックアップサーバ



LTO-9 テープ装置

* 利用可能なテープ装置は認定デバイスリストを参照 (Arcserve Backup 18.0 でもパッチモジュール: P00002461 で対応)



Arcserve Backup デフォルト DB のバージョン変更

SQL Server 2019 Express Edition を採用

アップグレード インストールでも SQL Server 2019 Express にバージョンアップ*

Arcserve Backup 旧バージョン

(SQL Server 2014 Express)



Arcserve Backup 19.0

(SQL Server 2019 Express)



* 手動でアップグレードの選択も可 (この場合は Arcserve Backup 19.0 利用前に SQL Server 2019 Express Edition を導入)



導入ソフトウェア更新によるセキュリティ強化

新しいバージョンでサードパーティ コンポーネントを導入

サードパーティ コンポーネント	Arcserve Backup 18.0	Arcserve Backup 19.0
Apache (Tomcat)	9.0.13	9.0.58
Java SE Runtime Environment (Open JRE)	1.8.0_192	1.8.0_292
Log4j	1.0	2.17.1
.Net Framework	4.5.1	4.8.1
OpenSSL	1.0.2m (FIPS 2.0.10)	1.0.2u (FIPS 2.0.16)
Visual C++ Redistributable	2010	2019 (2015-2019)
Visual Studio	2017	2019
VMware Virtual Disk Development Kit (VDDK)	6.7 (6.7.8535999)	7.0 Update 2
Windows SDK	7.1	10.0



製品情報とお問い合わせ窓口



Arcserve ポータルサイト : arcserve.com/jp

カタログセンター (カタログ、技術資料: スケジュール設定例, バージョン比較など)

<https://arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/>

Arcserve カタログセンター

検索



Arcserve ジャパン ダイレクト (ご購入前のお問い合わせ窓口)

例: 「必要なライセンスは?」、「XXXをサポートしますか?」 等等



フリーダイヤル: **0120-410-116**

(平日 9:00~17:30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)



Webフォーム: <https://www.arcserve.com/jp/about/contact/call-me/>



メールアドレス: JapanDirect@arcserve.com



arcserve®